



NVNネットワーク講演会
2024/5/26

令和6年能登半島地震の現場から
-復旧期の今求められること-

ごちゃまるクリニック院長 小浦友行

1

自己紹介

- 小浦友行 ごちゃまるクリニック 院長
- 石川県 輪島市 **朝市通り出身**

<p>【略歴】</p> <p>2005：富山医科薬科大学卒業 2007：富山大学附属病院 総合診療部 2012：富山大学附属病院 災害・救命センター 2014：富山大学医学部 富山プライマリ・ケア講座 2017：公立穴水総合病院 臨床研修センター 2021：奥能登ごちゃまるクリニック 2022：ごちゃまるクリニック</p>	<p>【資格】</p> <p>日本プライマリ・ケア連合学会 認定指導医 日本専門医機構 総合診療医 日本内科学会 総合内科専門医 日本内科学会 JMECCインストラクター 日本医師会 認定産業医 石川県認知症サポート医</p>
---	---

独立開業1年程の 新人院長

2

自己紹介

- 8人家族（祖母は現在二次避難中）
- 妻は小児科医（産婦人科も少々）



3

ごちゃまるクリニック

Patient-Centered Medical Home : PCMH

日老医誌 2017;54:499-506

- 外来ケア：妊産婦、乳児～高齢者
- 地域ケア：社会的処方箋活動
- **在宅ケア**：訪問診療（在支診）、訪問看護、訪問リハ



4

NPO法人 じっくらあと

- ・生きづらさをかかえる子へのアウトリーチ
- ・わじまティーンラボ

相談事業、居場所づくり、つながりづくり

5

6

7

能登北部、輪島市について

	人口	高齢化率	年少人口
輪島市	24,032	47.0	1,551
珠洲市	12,801	52.2	936
能登町	15,337	51.3	1,154
穴水町	7,670	50.6	553

(R2.10.1)

輪島市面積：426.3km² (県内3位)
 公立病院数：1 (市立輪島病院)
 診療所数：26 (うち公立6、在宅診2)
 訪問看護事業所数：4 (うちステーション2)

高い高齢化率の広いエリアを、少ない在宅資源で担っている

8

世界農業遺産「能登の里山里海」

春

優れた里山景観
日本海に面した急傾斜地に広がる棚田や「間田」と呼ばれる竹の垣根、茅葺きや白壁・黒瓦の家並みなどが広がっています。

伝統的な農林漁法と土地利用
稲のはざし(天目干し)や高女などの伝統的な農林漁法が継承されています。平家取返しやめしめが有名で、棚田には多くの棚田が見られます。

文化・祭礼
ユネスコ無形文化遺産に登録された「あえのこと」をはじめ、農林水産業と結び付いた文化・祭礼が伝承されています。

冬

夏

「世界農業遺産」
「能登の里山里海」
それ
能登の暮らしそのもの。

伝えたい伝統的な技術
日本で能登に唯一残る「掛け浜式」と呼ばれる製塩法や、「輪島塗」といった伝統工芸、「炭焼き」などの伝統的な技術が継承されています。

里山里海の利用保全活動
棚田のオーナー制度や農家民宿、農林水産物のブランド化、行徳と大学が連携した人材育成などが進められています。

多様な生物資源
希少種を含むたくさんの生きものが生息・生育しています。また、「黒豆野郎」などの在来品種の栽培の復興がはかられています。

秋

農林水産省HPより

9

令和6年能登半島地震

震源

当院

時刻：1月1日16時10分
規模：M7.6
死者：241名（災害関連死15名）

焼け野原の輪島本町朝市通り

全壊家屋の横を通学

近年の地震と能登群発地震

1995.1	阪神淡路大震災	M7.3
2007.3	能登半島地震	M6.9
2011.3	東日本大震災	M9.1
2016.4	熊本地震	M7.3
2023.5	奥能登地震	M6.5
2024.1	R6能登半島地震	M7.6

頻回
かつ
甚大

10

小浦 友行
1月1日 · 🌐

生きてます。街は壊滅状態です。

👍🥰🙏 渡辺 史子、三浦 太郎、他129人

52

11



12

発災1週間



13

在宅ケアの再開

訪問診療・往診再開



訪問看護再開

14

被災地対応オンライン診療

NTTドコモ、能登半島地震被災地域でオンライン診療による地域医療再生支援



15

医療コンテナの設置



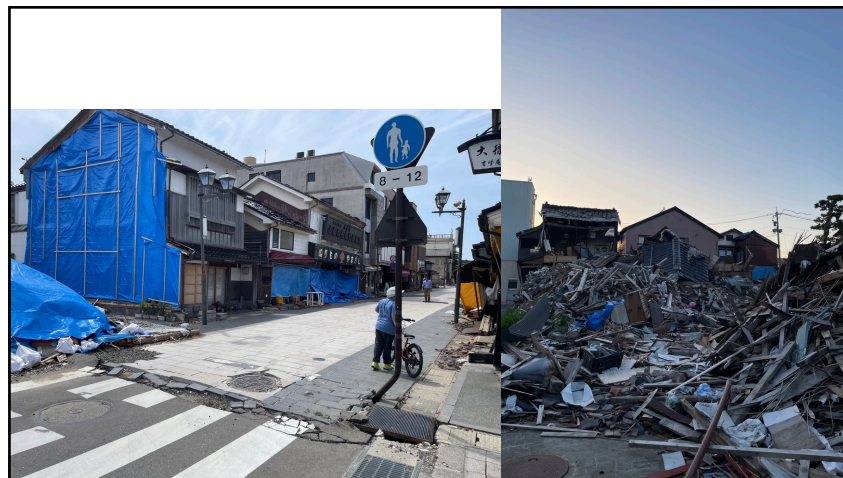
16



17



18



19



20

外来にて

84歳 能登太郎さん

かつて朝市通りにあった自宅は全焼
現在は仮設住宅で妻と二人暮らし
かつてのご近所さんとは離れ離れ
ボースカウトや謡（うたい）などが趣味



21

外来にて

もし望みが叶うなら、という質問に対して
「そりゃあちこち行きたいね。窓岩とかね。
車はあるけど道も悪いし、行ったら行ったでどんな
ひどいことになっとるかかわらんし。
考えたらもうあちこち行くのも面倒になって。
前は歩いて朝市行って、松生さん行って、そんで知っとる
人としゃべってはね。思えばあんなことが大切やったね。
趣味を再開しようにも文化会館も入れんなったし。」

22

お茶会にて

38歳 里山花子さん

夫と10歳の長男と避難所生活

「避難所にいると本を読む機会がないですね。
図書館も使えないし。
子供には本でも読ませてあげれば
ゲームばかりにならなくてよいのかも。」

23

お茶会にて

「公園で遊ばせたいけどそこも全部仮設住宅になってるし。
今後どうなるんですかね。
小学校もいつの間にか廃校に
なるんでしょうか。
ちょっとさみしいですよ。」



24

避難所の一角にて

91歳 波野春子さん 他2人のおばさまと
 「避難所の中もね、変な人ばかりになりましたよ。
 ずっとお酒飲んでる人、壁に喚いている人、
 注意してもでかい声出すだけやし。
 早く仮設入りたいんやけどね。まだお声がかからんね。
 もううんざりするわ。」
 といっている側から酒飲みのおじさんが笑って
 井戸端会議に入ってくる
 「あんたたち、ちゃんと先生にみてもらわないかんげぞ笑」

25

仮設住宅にて

50歳 港義夫さん
 自宅は半壊、同居の父は震災直後に脳梗塞で入院
 震災一ヶ月頃に訪問診療開始
 アルコール肝硬変でかつては命に関わるほど不安定
 一時入院していたがタバコがやめられず
 病院側と喧嘩して歩くのもやっとの状態で半壊の自宅へ退院
 訪問診療、訪問看護を継続して現在は体調が回復
 避難所、仮設避難所を経て仮設住宅へ

26

仮設住宅にて

入居間もないとある診察日
 「最初は心配やったけど大丈夫そう。
 最初は死んでもおかしなかったからね。
 先生達のおかげでここまで元気になったし、
 せっかくなら今度は働くのが目標やわ。
 仮説の近所の人面倒みてもいいし、子供の面倒もみるよ」

27

仮設住宅にて

「実は俺、自身の後、潰れた家に戻って首吊ろうかな、って
 何回も死のうかな、って思ってん。何も希望もなかったし。
 先生とか、ごちゃまるのみんなに出会ってなかったら
 ここまでこれんかった…
 病院嫌いやし、医者も信じられんかったし、でも先生とか
 浦くんやったら信じれたわ。ありがとう。」

28

今求められること

- ・令和6年能登半島地震発生から5ヶ月が過ぎようとしている
- ・大変残念ながら、倒壊家屋だらけの街並みは変わらない
- ・水道などのインフラも宅内配管やエコキュートの故障などの問題で、未だ通水せず、風呂にも入れない自宅もある
- ・避難所は8月いっぱいの閉鎖を目標に段階的に集約化
- ・そのため追い出されるような気持ちで移動する住民も多い

29

今求められること

- ・仮設住宅に入居したとしても、かつて過ごしていた当たり前の日々は戻ってこない。
- ・いつものお店、いつものご近所、いつもの趣味・娯楽。
- ・この当たり前のルーチンがいかにかの個人形成にとって重要であったか、失った今は心より実感できる。
- ・避難所では未だ炊き出しも不安定な避難所もある。
- ・避難所の炊き出しも残飯が増えているという。みな辛くなっている。ただ与えられるのみの生活が。自ら買い物し、調理し、好きなものを好きなだけ食べたい。

30

今求められること

- ・震災支援の中で愚行権という言葉を知った。避難所生活の中で失われがちな大切な権利。楽しくてついのはめを外して二日酔いになる権利。不合理な行動であるがそれこそが人の営み。
- ・その一方で避難所で孤独に密かに増える酒量もある。果たしてそれは個人の自由か、それとも余儀ない行動か。

31

今求められること

- ・東日本大震災で訪れた石巻で住民に言われた。「あなたはここにきた。支援のために。ならこれからも来続けなければいけない。それが義務ですよ。」脅迫まがいの話だ、と絶句した。
- ・でも今はわかる。あの人は忘れられなくなかったのだろう。被災下で生きる私にとっても同じこと。忘れ去られるのが怖い、熱が冷めるのが怖い…

32

今求められること

- ・支援のみなさんとは本当に濃密に過ごすことがあった。その度に感情移入してしまう。
- ・また会いに来てほしい。忘れないでほしい。
- ・震災支援は普遍的な備品支援が一般的だが、それが必要なところもまだあろう。
- ・でも現実に最も期待したいのは個別化された支援だ。その人が求める支援を、その人が負担にならないように、そんな個別性を理解してもらえることは何よりうれしい。

33

今求められること

- ・支援のみなさんとは本当に濃密に過ごすことがあった。その度に感情移入してしまう。
- ・また会いに来てほしい。忘れないでほしい。
- ・震災支援は普遍的な備品支援が一般的だが、それが必要なところもまだあろう。
- ・でも現実に最も期待したいのは個別化された支援だ。その人が求める支援を、その人が負担にならないように、そんな個別性を理解してもらえることは何よりうれしい。

34